



## 消費税が大きなビルに化ける

小さな店が並ぶ賑やかな駅前商店街が消え、高層ビルに変わっている。

東京渋谷ではJRの駅の改装も含め、駅をまたぐ地上四六階建ての超高層ビルなどを建てると云う。

人口減少社会なのに

総務省の予測では現在一億二六〇〇万人の人口が二〇五五年には九一〇〇万人に減少。使う人は減る一方なのに、大きなビルが建てられている。

大きなショッピングセンターが建てられる一方、古くからの商店街は店が次々と閉じられシャッター通りと云われている。

高層マンションが次々と建てられているが、人口が増えている訳では無い。どんどん空き家は増えている。

どうして？

どうして、大手は次々とビルを建てられるのか？

消費税が導入されて二十二年、集めた消費税は二二四兆円。一方、この間に法人税は税率引き下げもあり二〇八兆円も減少。法人税が減ると、配当や内部留保が増える。それを資本として、次々と大ビルが出来る。

つまり、我々の納めた消費税が大きなビルに化けているのだ。

一九九七年の賃金を百とすると、二〇一一年には八九・五に減少。ビルを建てるのではなく、残業を減らし、賃金を引き上げ、正規雇用を増やしたら、労働者の暮らしは良くなる。人口も増勢に転ずるのでは？  
みなさんはどう思われますか？

## 燧ヶ岳 ひうちがたけ

群馬県尾瀬ヶ原



先週に続き尾瀬ヶ原。

龍宮小屋に荷物をおろし、龍宮十字路から東に進み、沼尻川を越えた。正面は霧か雲か。池塘ちと塘に写る逆さ燧を期待していたが残念。

天気予報は明日は雨。山の中だから既に雲の中か。

参ったな？と思っていたら、その霧か雲かがいっとき流れて行き、燧ヶ岳が現れた。

尾瀬ヶ原に生える木は、厳しい自然にまっすぐ育つことは出来ず、くねくねと折れ曲がる。枯れた木もある。

厳しい自然  
燧ヶ岳を背に  
凜と立つ白樺

女性のグループがこの白樺を指して「貴婦人のようね」と云いながら歩いて行った。